
女王は世界を征する

佐原 環

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

女王は世界を征する

【Nコード】

N8218Y

【作者名】

佐原 環

【あらすじ】

王宮のこれといって肩書きのない一兵士だったヒサギは、何故か女王と一緒にお茶のみ（その他諸々）係に任命されてしまった！？可愛い女王さまとのドタバタ王宮ライフ！
別サイト同HNで投稿中のミラー版です。

なっがい肩書に意味はないけども！

女王付親衛隊所屬親衛部特別護衛班親衛大尉

このいかにも、な、ながったらしい肩書きが本日より私の称よび名になつた。

つまりところ、女王のもっとも近くにお仕えする特別な護衛の職務である。

「ヒサギ、何ちんたらししているの！？早くこちらに来て一緒にお茶するわよ！」

……そう、女王の御身を是ってお守りする”仕事”であるはずなのです。

「…恐れながら申し上げます、女王陛下。私の仕事は女王の護衛でございます。女王の休息を護衛ごときがご一緒するわけにはまいりません」

先にテーブルに着き、あろうことか恐れ多くも女王から一番近い席をペチペチと叩いて私をお誘い下さる我が主。

私がていねいかつていちょーにお誘いをお断りすると、女王は愛ら

しい双眸をこれまた愛らしく丸めて一言。

「何言っているの、ヒサギ。こういうの（休息と言つ名のティータ
イム他諸々）が、アナタのお仕事でしょう？」

はい。すでにあの肩書きの仕事内容ではなくなっています、女王。

………ティータイム”他諸々”に何やらつすら恐さを感じるのは
私だけでしょうか？

ウチの女王ってすごいんです！

大海原に他の国々差し置いて堂々と存在する大陸は一般に皆からマザー大陸と呼ばれ、その地上に生き、暮らす者ならばどんなモノでも全て飢えを知らず、戦いに怯えることもなく平和に寿命を全うすることができると言われております。

そのもとはマザー大陸をたった一人で占めております小さな女王にあるのです。

女王はマザー大陸の最も気高き古き一族の血を引き、寿命は千年ともそれ以上ともいわれ、民たちの平均寿命八十歳をゆうに十二・五倍ほど上回る歳月を生きられるとても貴きお方なのです。

ちなみに女王は今年で二百と十四の歳をむかえられましたが、外見は十四、五歳のまるで人形のような愛らしいお姿をしていらっやいます。

ビスクドールのようにシミ一つない白磁の肌は滑らかで白く、ふわりと揺れる長い髪は極上なエメラルドブロンド。

大きくて愛らしい黄金の瞳はその愛らしさを損なわず、かつ聡明で賢く、時に冷静に世を見定めておられます。

女王たる質をそこなわせず、さらに気高き古き力を自由自在に操られるお姿は、日々鍛練に明け暮れた我々兵士たちでさえもその勇ましさに虜になってしまふほどなのです。

小さなお体でまるで人形のように愛らしい女王陛下ですが、ウチの女王って見かけによらずスゴイんです！

女王の一日ってだいたいこんなもの

女王の一日は私の朝の声掛けから始まる。（何故だろうか、女王を起こすのも私の仕事の一部に入っているらしい）

「女王、お時間でございます」

「んう、……………もう少し……………」

「女王朝の洗礼のお時間に遅れてしまいますよ？」

早く起きてください。と私が恐れ多くも女王の御身を軽くゆすると、夢うつつでお返事をしておりました女王が薄く目を開き、私に向きました。

おおっ、あともう一息です。

「さあ、起きて下さいー！」

「……………おはよう、のキスをしてくれたら起きるわ」

.....寝言は寝ている時に言っ
てほしい
ものです。いや、本当に。本気で。

ぼふんっ、と私の顔から音を立てて熱い蒸気が立ちのぼったのは言
うまでもありません。

もちろん顔面真っ赤。

とある異国にあるらしい日の丸国旗の赤丸よりも赤くなっていると
自負しております。

おはよう、のキスはなんとか（床におでこをひつつけるほど土下座
をして、泣きながら）お断りのお許しをいただき、御身のお支度を
ささやかながら専属の侍女達にまぎれてお手伝いしたあと、ようや
く朝食のお時間です。

私の朝食も、毎度しつかりちゃっかかり用意されており、女王とご一
緒させていただくことになっております。（何故だろうか、女王と
一緒に食事をするのも私の仕事の一部に入っているらしい）

「はい、ヒサギ。あゝん」

「~~~~っ！！女王っ！！トマトが嫌いでもちゃんと召し上がってください！」

細切れにされた真っ赤く熟したトマトを銀のフォークにプスリと刺し、私に向かって差し出している女王はなんと爽やかで愛らしいのですが、朝の甘々カップルもどきのように食べ合いつこしようとしながらさりげなく嫌いな食べ物私で処理なさらないでください。

色々と心臓に悪いんです。色々と……。

私は逆に女王の嫌いなトマト他、朝食のほとんどを女王に向けて何度も（恥をしのび）「はい、あ〜ん」をこなし、なんとか全てを召し上がっていただいたあと、女王は朝の洗礼に向かいます。

古き力を持つ女王にとって、神聖なる場所で心身を整えることはとても大切なことなのです。

それが終わりますと、女王の本来のお仕事が待っているのです。

「サクバ村の水路修復の件はどうなっているの？ギルド大臣」

『はい。諸候の者より途中経過報告が届いております。こちらの書

類の………』

……

『地方の医療設備ですが、若干基金不足の為、薬が出回りにくくなっているようです』

「確か都内の各医療機関では蔵に予備の薬が残っていたわね？移動できる分だけ急ぎ手配して地方に出来るだけ回るようにしなさい。それから時期のも含みもう一度医療予算を組み直すように」

『畏まりました。次に20日後に行われる月並際についてでございますが………』

——こうして日中は各大臣、時には各諸候殿とご一緒に国の政務をこなし、ささやかな昼食のあと、午後はデスクワークに励まれます。

余った時間は宮内の各部所へお顔をお出しになったりとその小さなお体で日々ハードな王族としての仕事をこなしていきます。

女王がお仕事の間（昼食、休憩は除く）私はようやくあのながい肩書きの通り、女王の最も近い場所で護衛にあたる事が出来るのです。

午後の休憩には（女王の命令で）恐れ多くも女王の隣で私も休憩を取らせていただき、再び執務室でしばしの間机に向かわれたあと、夕食の時間と同時に女王の一日のお仕事は終わるのです。

もちろん夕食の時間も朝、昼と同様私の分の食事がしっかりやり取り用意されており、同じ席で一緒にさせていただきます。（何故だろうか、夕食を一緒にするのも……もうこの言葉めんどくさいですね。と言うことで以下略で）

女王からの”はい、あゝん”を幾度となくかわし、女王が湯浴み場へ向かうお時間になると、ここで私の役目は終了となるのです。

「ヒサギ」

……なる、はずなのです。

「……いかがなされました？女王」

女王が数人の侍女を連れて湯浴み場へ、私はその反対へと足を踏み

出しすतすぐに女王からお声がかかりました。

なんとなくイヤな予感がしなくもないですが、主のお声に返事をしますと、壁からひよっこりと小さなお顔を出される女王。

ああ、すでにおめしものを半分以上取っておりますね。

そんなお姿で男の目の前に出てはダメですよ、女王。

たとえ顔だけでもそのなめらかな白磁の肩がみえているんですよ、女王。

私ではなくとも、禁欲生活が常の王宮勤めの男どもに絶対に見せてはなりません。

心の中で女王にお咎めするも、慌てた様子のまったくこれっぽっちも見せない侍女たちの様子から、私はそう口にするのをこらえる。

…………ぐつと、じらえる。

出来るだけ失礼のないように伏せ目がちに女王のお言葉を待つてお
りますと、それほど間をあげずにお返事がありました。

「ヒサギ、もう仕事終りでしょ？一緒に風呂にはいりましょ」

ああ、もう

「……………カンベンしてください。女王」

こうして女王……………と、私の一日は過ぎてゆくのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8218y/>

女王は世界を征する

2011年11月24日14時45分発行